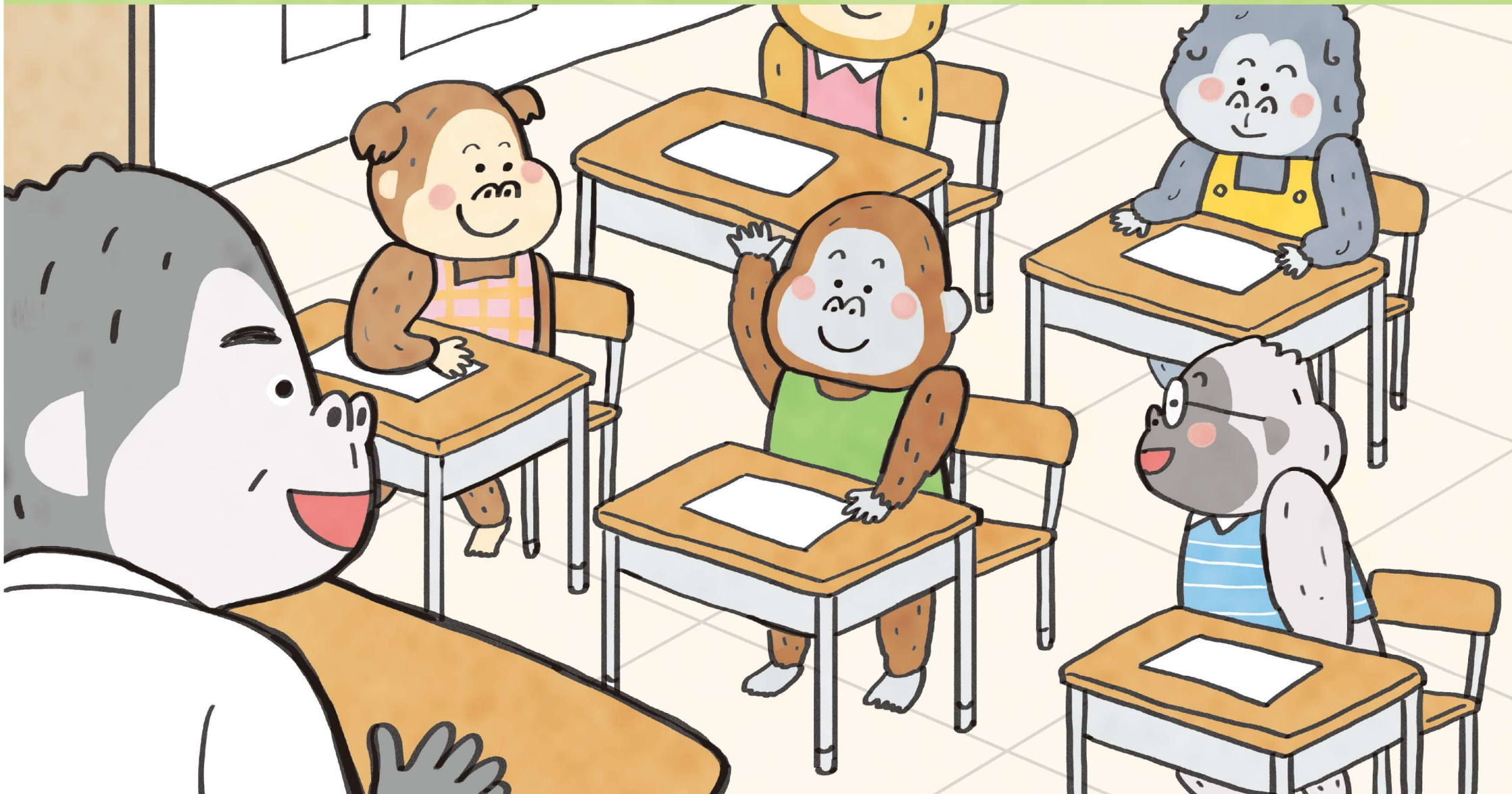


# みっちゃん おじい ちやんちへいく

～イヤっていつてもだいじょうぶ～





夏休み。  
なつやす

みっちゃんは家族でおじいちゃんの家へ  
で  
出かけました。  
かぞく いえ

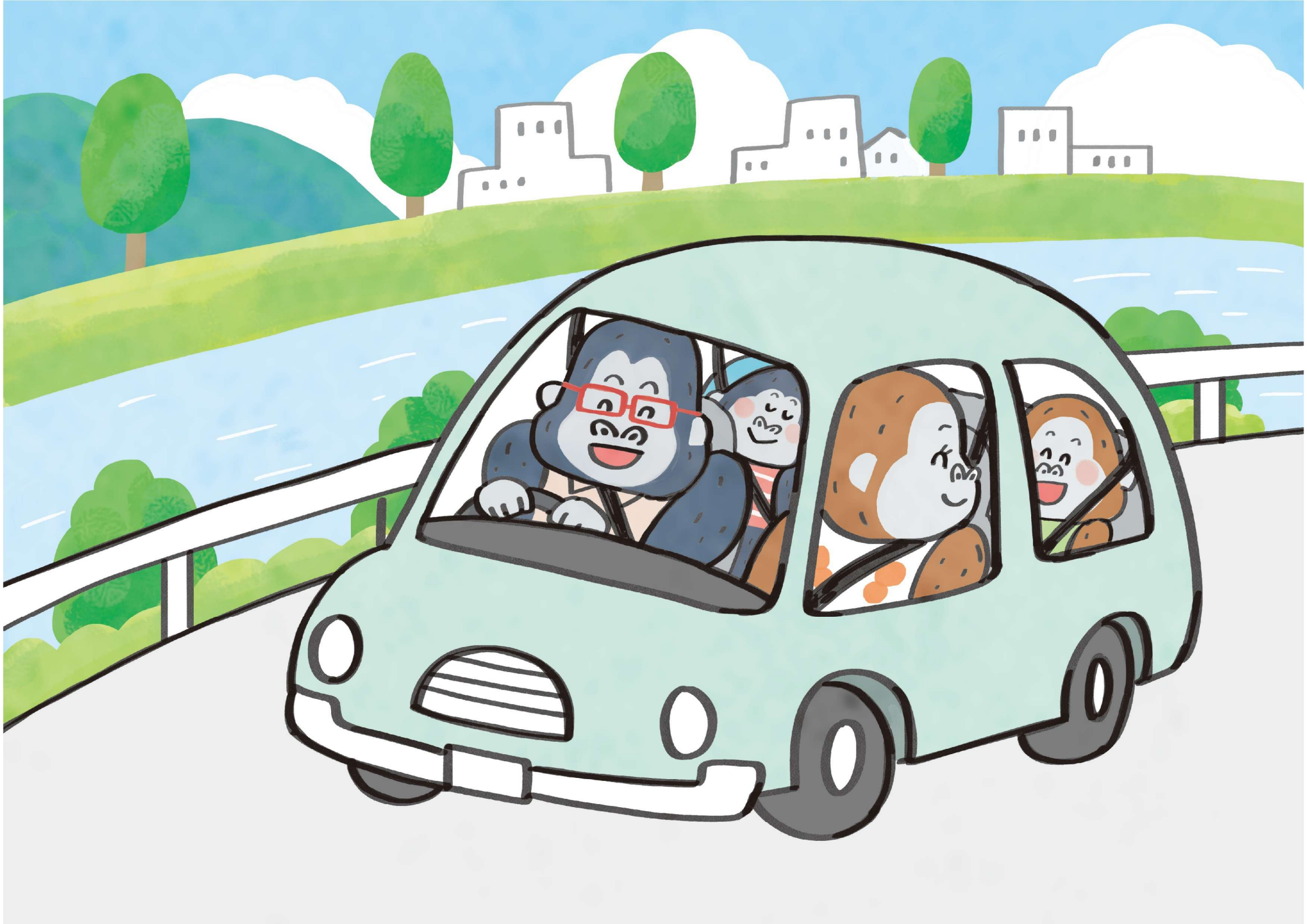
みっちゃんは、おじいちゃんが大好き。  
だいす  
胸がわくわくしています。  
むね

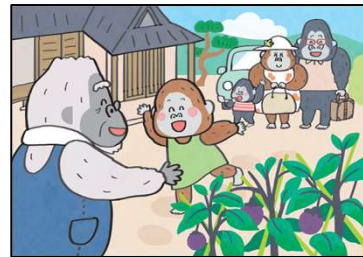
お父さん  
おとうさん

「もうすぐ着くよ。」  
き

みっちゃん

「やったー！ 今日はおじいちゃんとい  
っばい遊ぶんだ！」  
あそ





みっちゃん

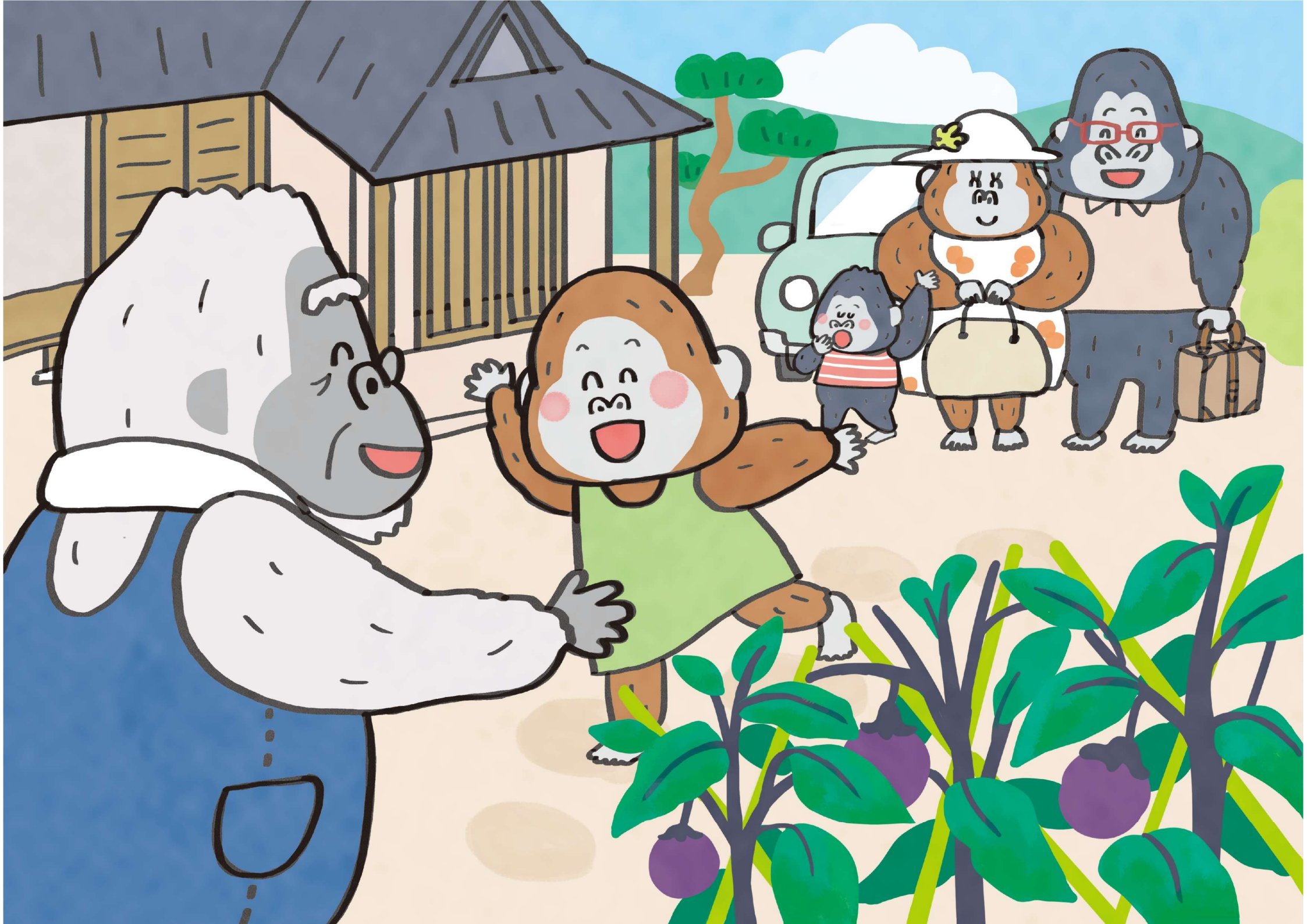
「おじいちゃん！」

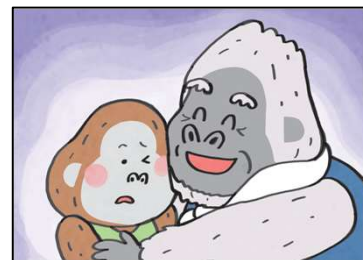
おじいちゃんの家いえに着くと、おじいちゃんんが両手りょうてを広げて待まっていました。

おじいちゃん

「よくきたねえ、みっちゃん！」

だっこしてあげよう。」

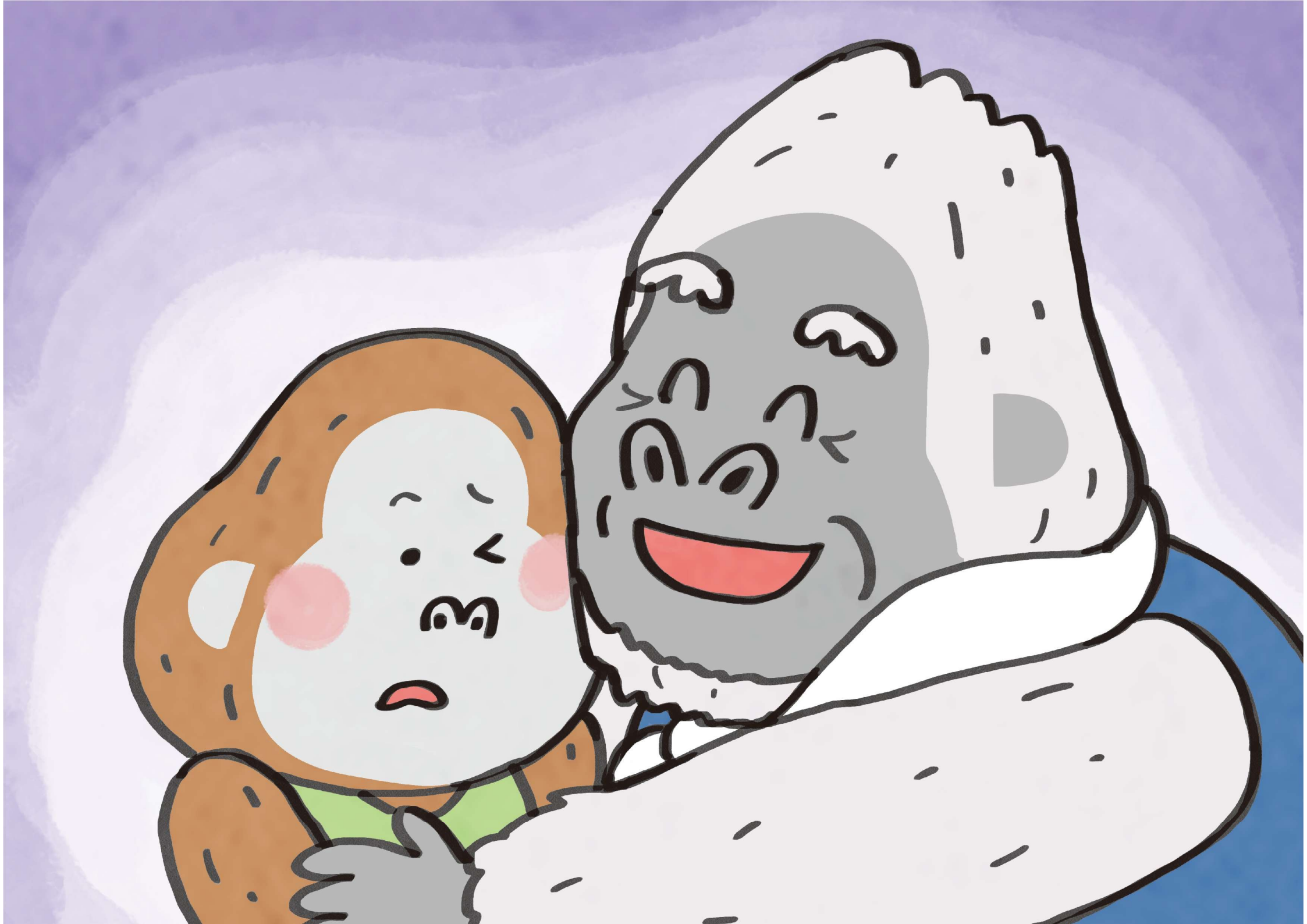




みっちゃん

「なんだかいやだなあ。」

おじいちゃんはうれしくて、みっちゃん  
をいきなりぎゅっと抱だきしめました。



みっちゃん おじいちゃんちへいく  
～イやっていってもだいじょうぶ～

5



みっちゃんは、だいす大好きなおじいちゃんの  
家いえに来たのに、げんき元気ができません。

たの楽しみにしていたはずなのに、えがお笑顔にな  
れませんでした。





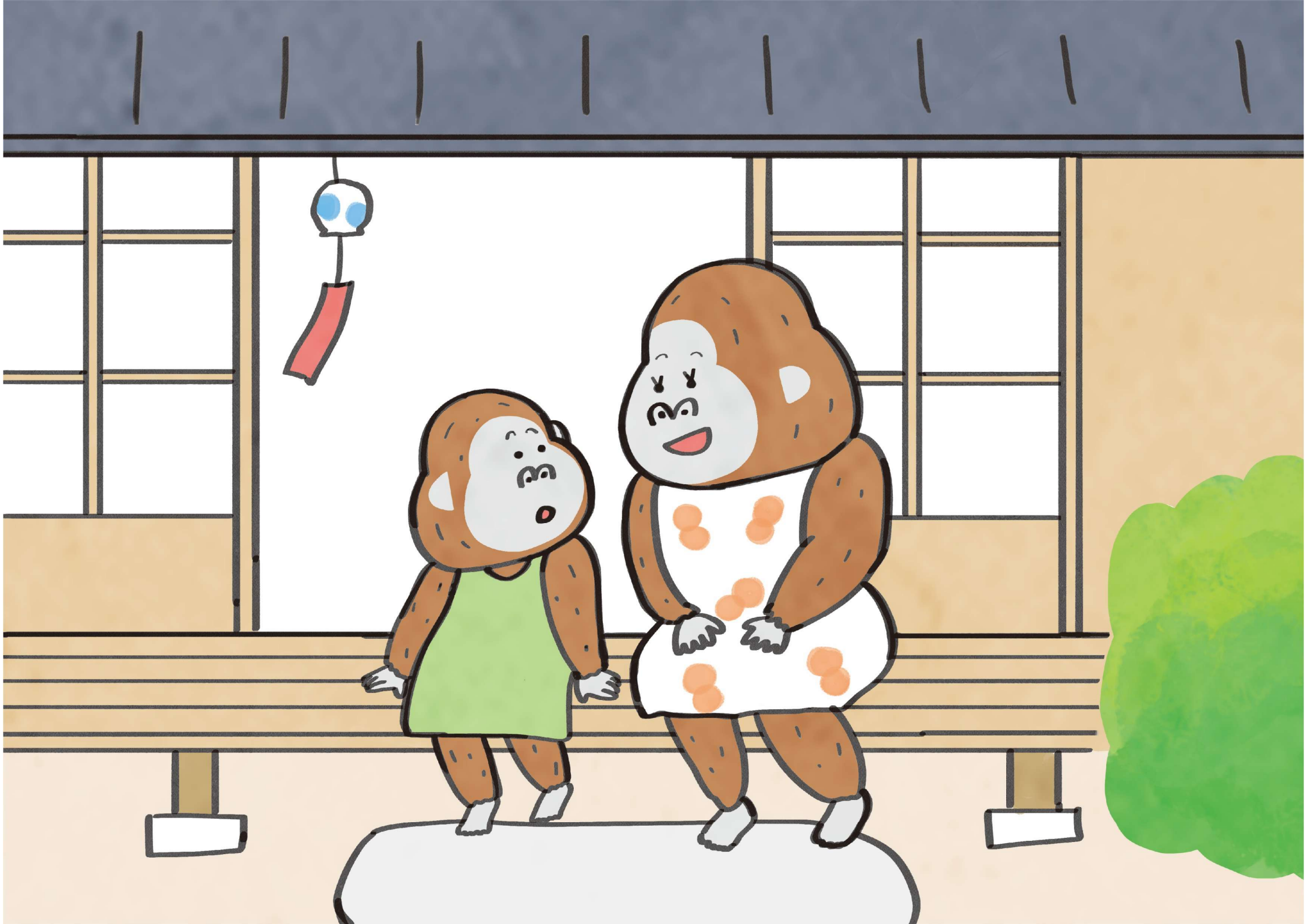
お母さん  
かあ

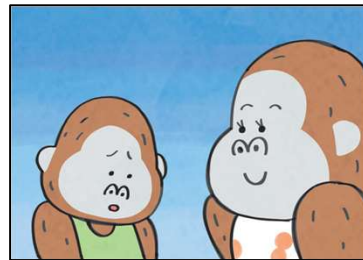
「みっちゃん、どうしたの？」

ちよっと元げん気きないね。」

みっちゃん

「うん、あのね・・・」





みっちゃん

「おじいちゃんと遊ぶのは大好き。

でもね、いきなりぎゅっとされたとき、

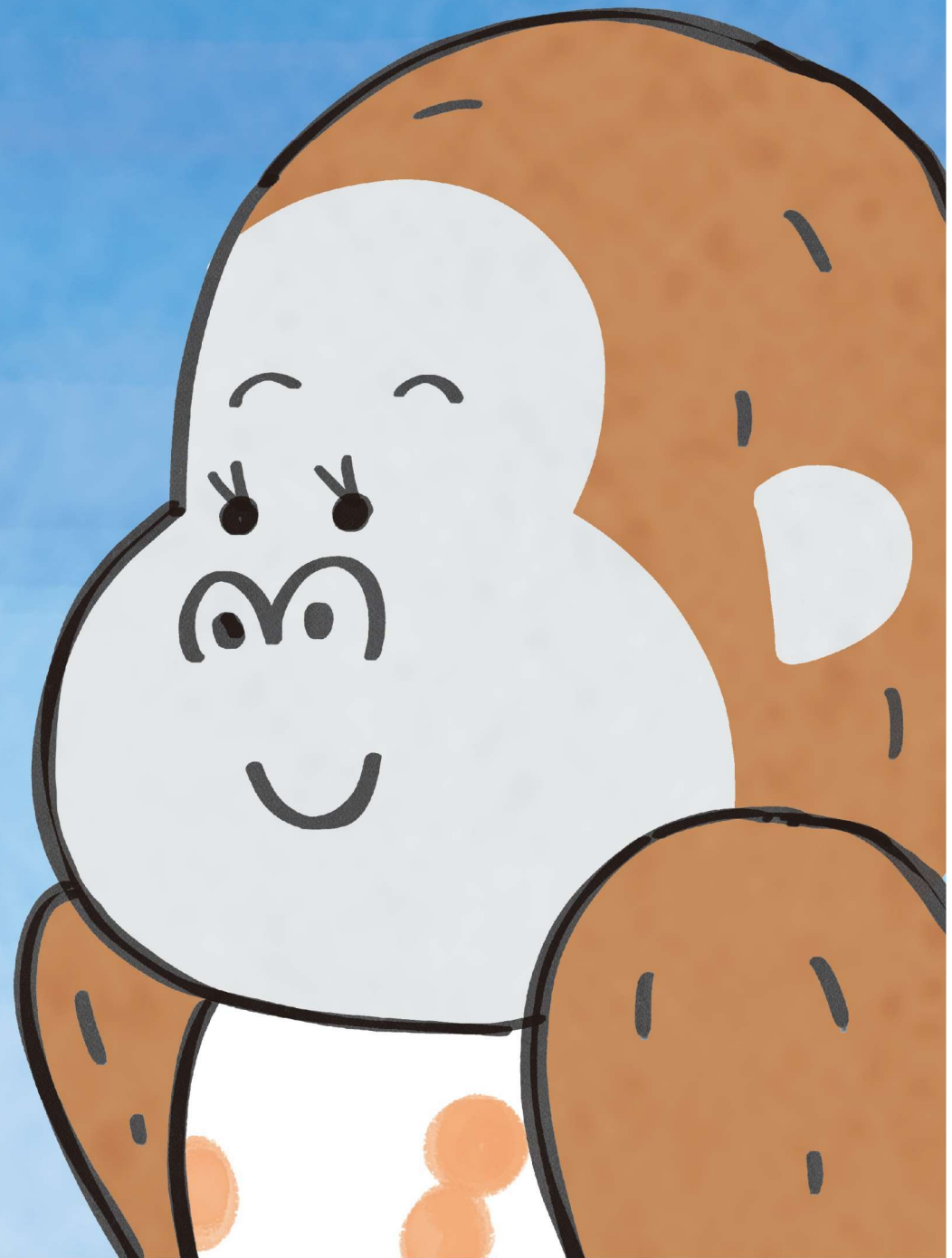
イヤな気持ちになっちゃったの。」

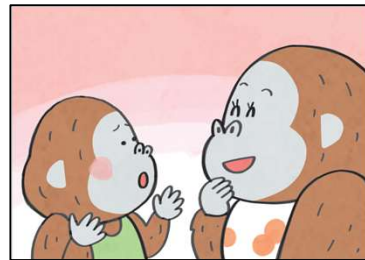
お母さん

「そっか……。そんなふうに感じて

たんだね。みっちゃんも大きくなったん

だもんね。」





みっちゃん

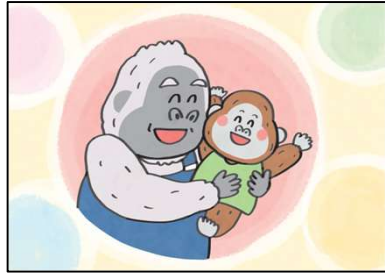
「でも、イヤって言ったたら、おじいちゃん  
がかわいそう。だって、みっちゃんのこと  
大好きだもん。どうしよう。」

お母さん

「あはははは、そうね、みっちゃんもおじ  
いちゃんもお互い大好き同士だもんね。」

と、お母さんは笑いました。





みっちゃん

みっちゃんの頭あたまの中に、小さいころの思おもい出でがうかびました。

おじいちゃんのだっこがうれしかったころのことです。

「今いままでは、だっこしてもらうのがうれしかったのにな・・・。」

お母さん

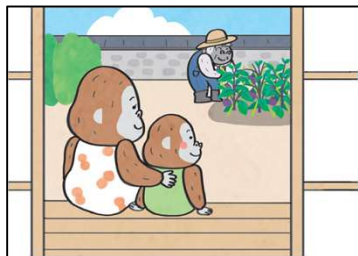
「うん。みっちゃんの身体かいたも気持ちきもちも、大きおおくなってんだね。好きすきなことやしてほしいことが変わるかのは当たり前まえだよ。」

みっちゃん

「そっかー」

お母さんかあの言葉ことばを聞きいて、みっちゃんはホッとしました。





お母さん

「だっこが『イヤ』って言うのは、『おじいちゃんのことをキライ』ってことではないよね。」

ただ、ぎゅっとだっこするのをやめてほし  
いって伝えてみたらいいんじゃない？」

みっちゃん

「あっ、そっかー。」

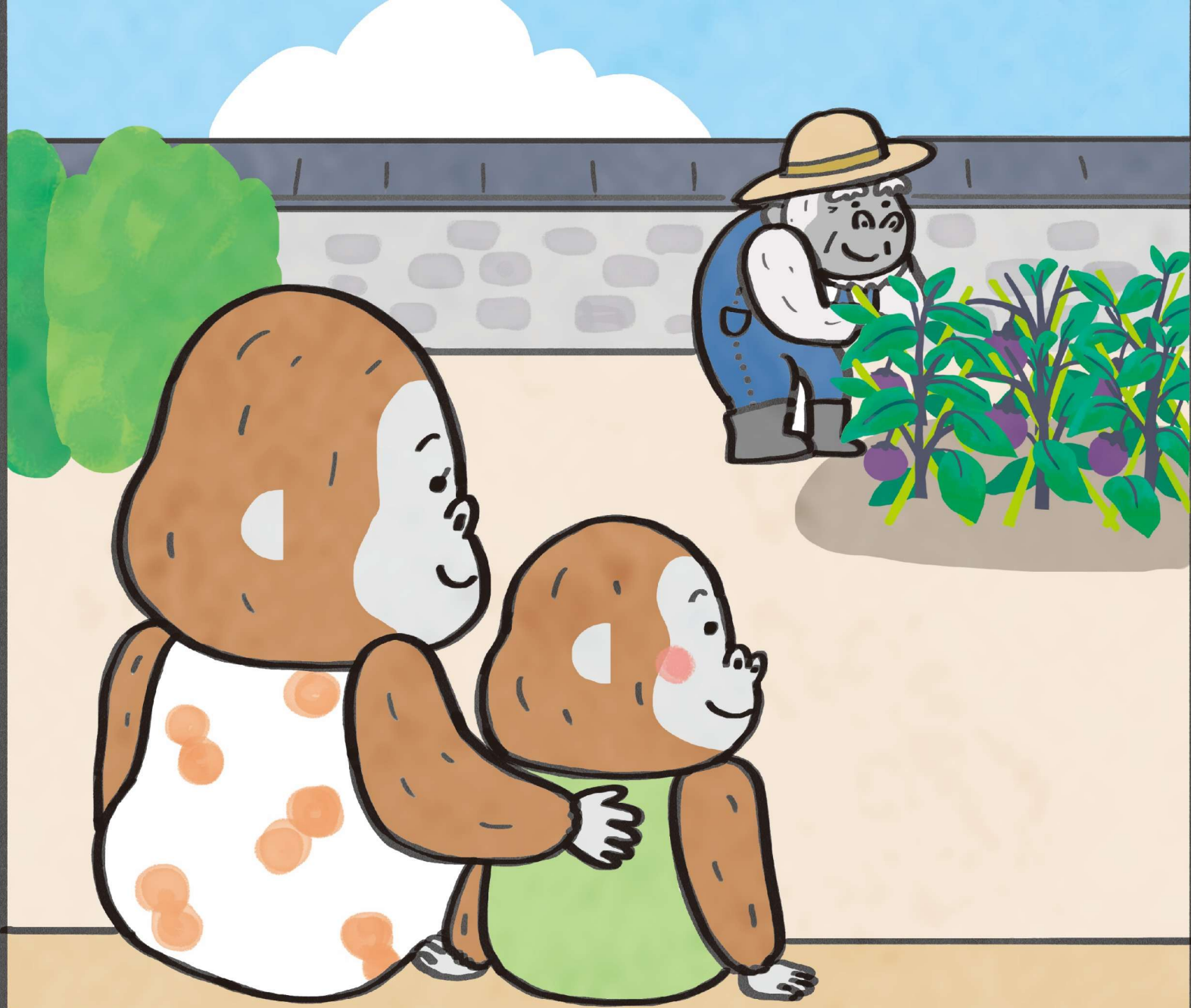
みっちゃん

「おじいちゃんにイヤって言うてみようかな。でも、『イヤ』って言うてもおじいちゃん大丈夫かなあ。」

お母さん

「みっちゃんの気持ちを伝えたら、おじいちゃんもきつとわかってくれるよ。  
お母さんもそばにいるからね。」

みっちゃんは、おじいちゃんの畑に走って  
いきました。





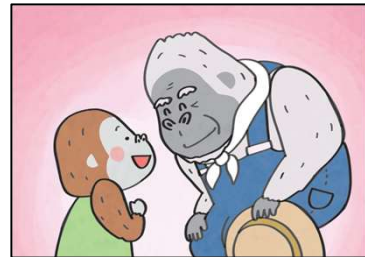
みっちゃん

「おじいちゃん、みっちゃんね、おじい  
ちゃんのこと大好き。」

でもね、ぎゅっとだっこされるのは、も  
うイヤなの。」

みっちゃんは、勇気を出して自分の気持  
ちを言葉にして伝えました。



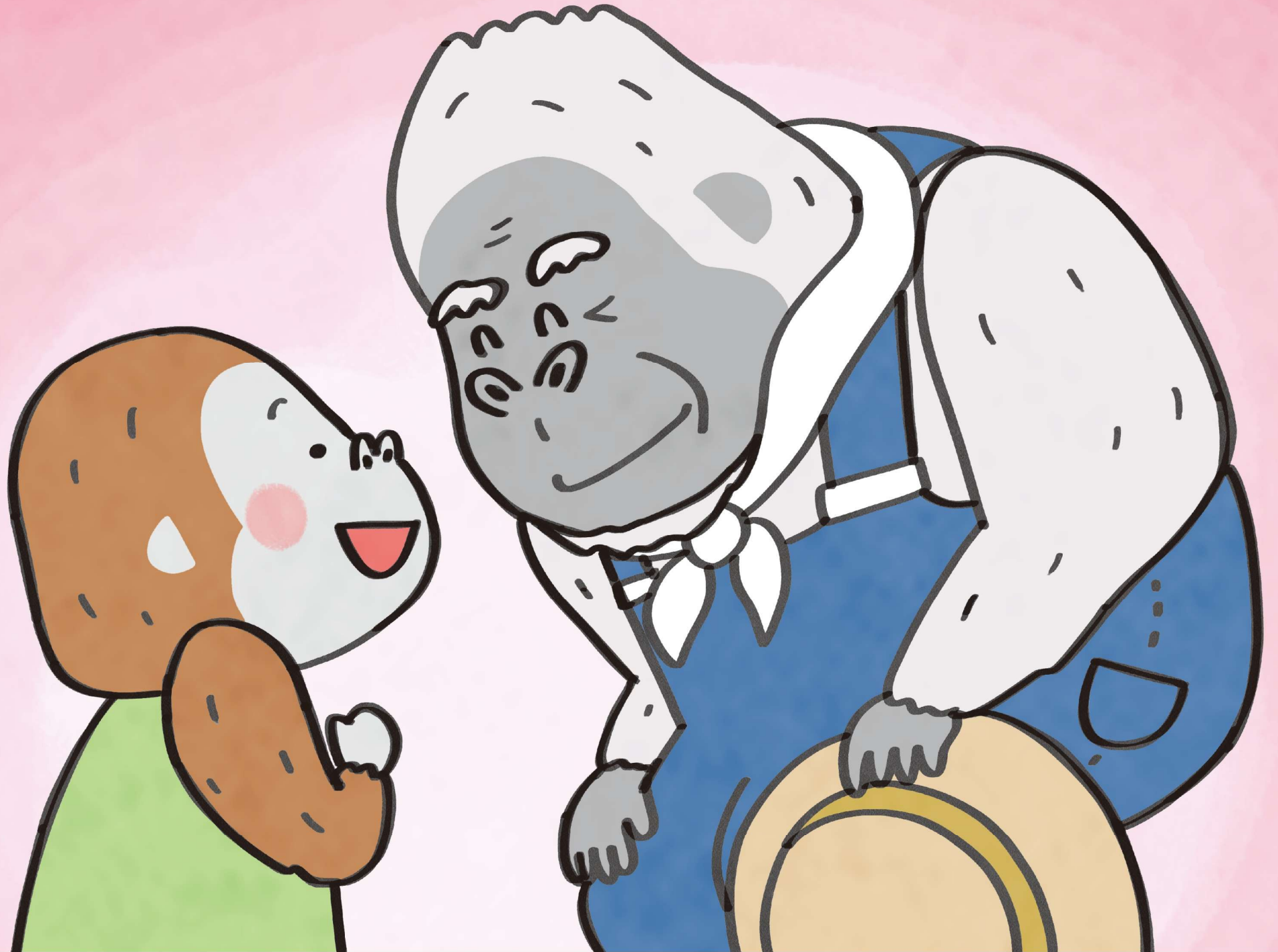


おじいちゃん

「そうか、そうか。」

みっちゃんの気持ち、お話ししてくれたから、よくわかったよ。」

おじいちゃんは悲しい顔をするどころか、うれしそうにみっちゃんの話聞いてくれました。





みっちゃん

そのあとは、みっちゃんは、心がすっきり  
して、笑顔が戻り、みんなで楽しくごはん  
を食べました。

「おじいちゃんの賀茂ナス、  
おいしいね！」

おじいちゃん

「またいつでも遊びにおいで。  
待ってるよ。」





おじいちゃん

帰る時間かえ じかんになりました。

「じゃあ、お別れわかのあいさつは何なににしようか？」

と、おじいちゃんはみっちゃんに聞きま  
した。

みっちゃん

「ハイタッチがいい。」

おじいちゃん

「わかった、また遊びあそにおいで。」

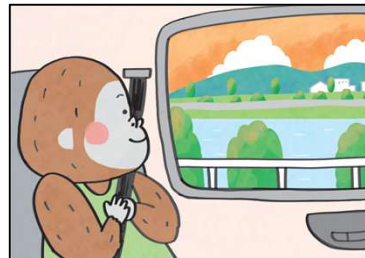
二人（おじいちゃんと

『タッチー』

みっちゃん）

『イヤ』って言いっても、だいじょうぶだ  
ったのです。

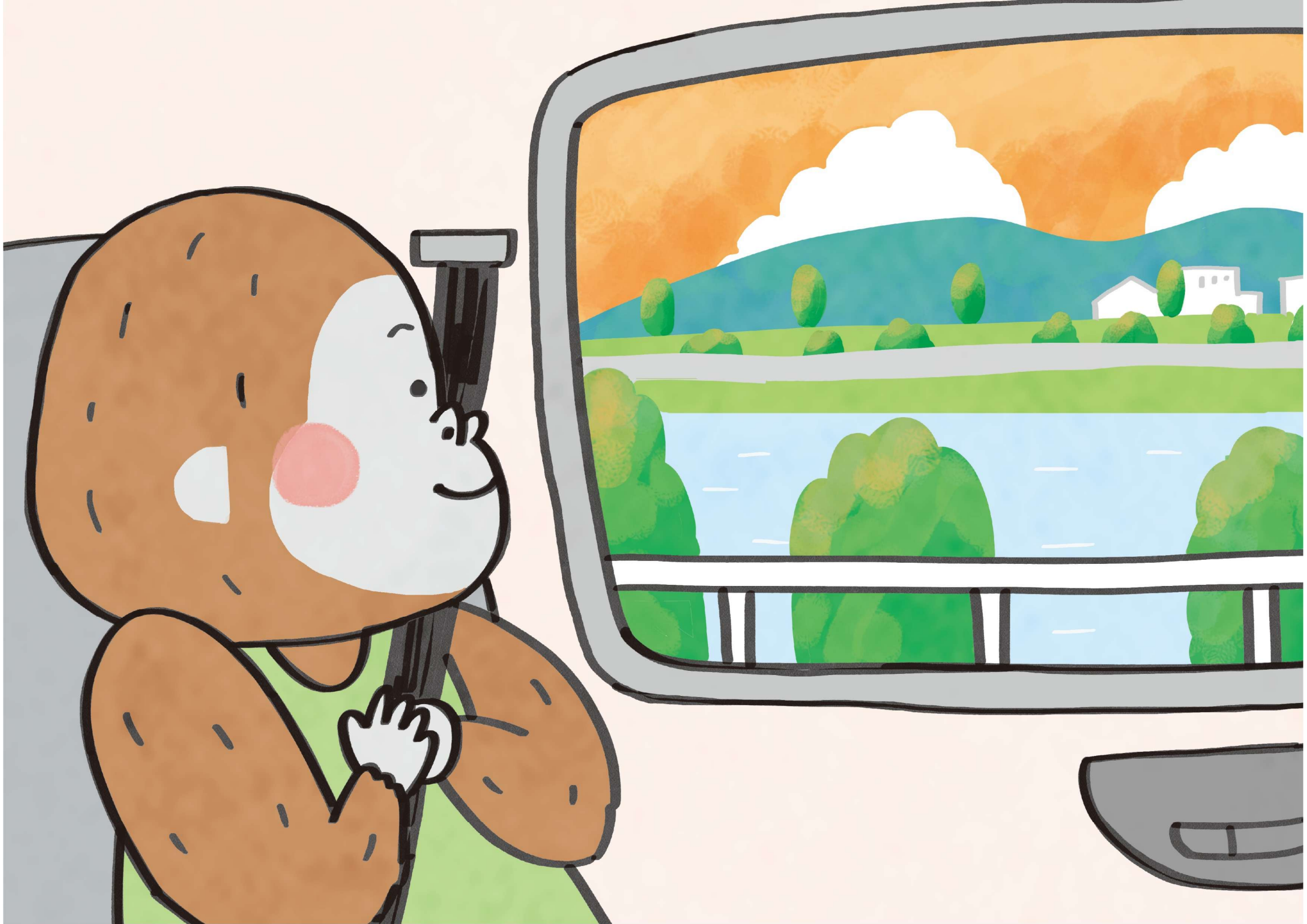




みっちゃん

「楽しかったなー。また次来たときは何  
して遊ぼうかな。」

みっちゃんは、自分の気持ちを伝えられ  
たことがうれしくて、心の中があなたか  
いまま帰ることができました。





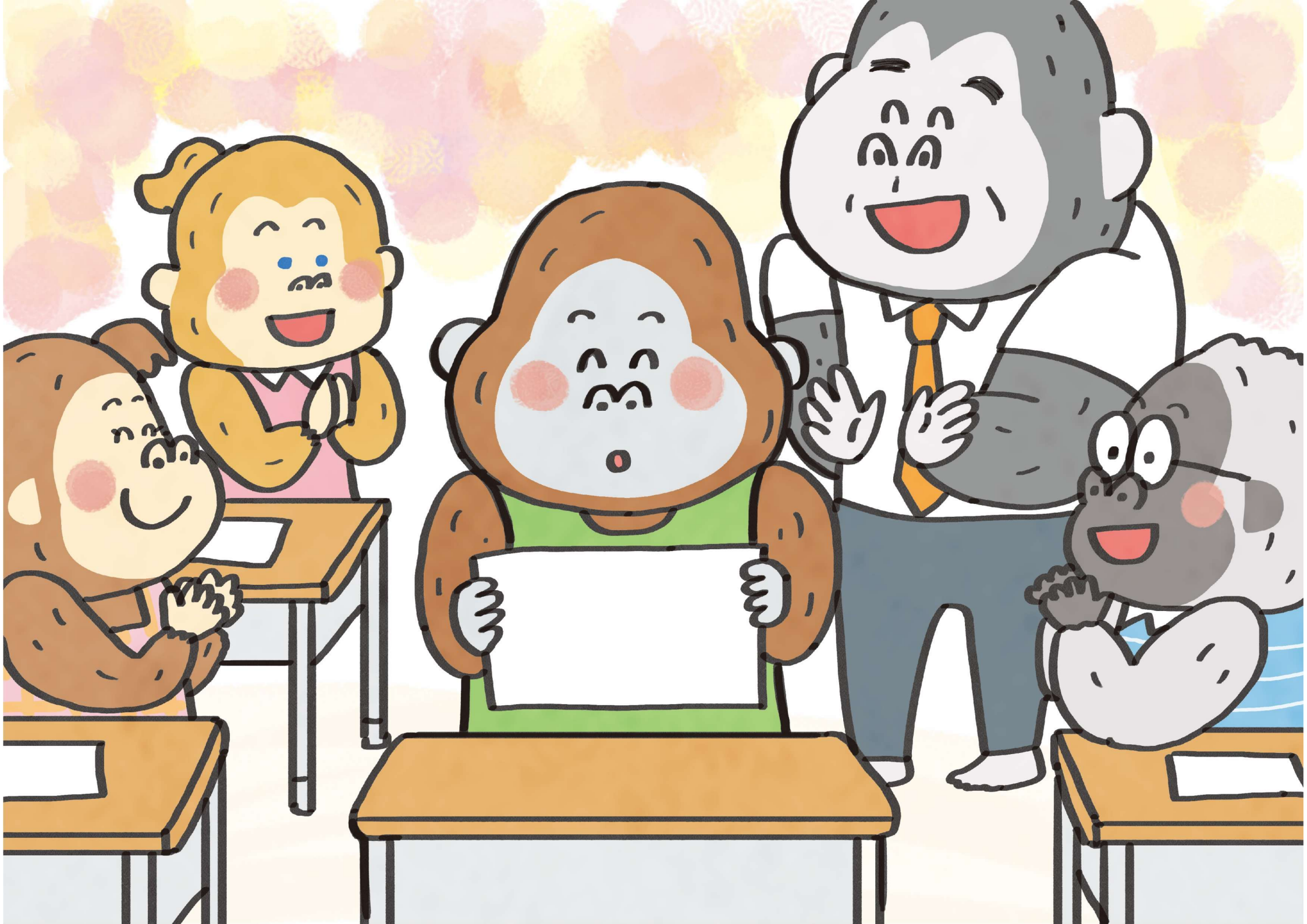
先生 せんせい

「みっちゃん、発表はっぴやうありがとう。」

勇気ゆうきを出だして気持ちきもちを言いって、おじいち  
やんにわかってもらってよかったね。」

みっちゃんの夏休なつやすみの思おもい出では、『大だい好す  
き』という気き持もちも『イヤ』という気き持も  
ちもどちらも大切たいせつにできたお話はなしでした。

おしまい





先生 せんせい

「ここは、はぐくみ小学校の教室。」  
しゅがくがうこうの きょうしつ

「夏休みの思い出をみんなで発表します。」  
なつやすみの おもいで みんなで はっぴょう

ではみっちゃん、お願いします。」  
ねが

みっちゃん

「はい！」

夏休みにおじいちゃんの家に行きました。  
なつやすみに おじいちゃんの いえ に行きました。

その話をします。」  
その はなし

この紙芝居は、子どもと大人が  
共に、包括的性教育を学んでい  
ただけるように、作成したも  
です☆



「健康長寿のまち・北区」  
応援キャラクター  
キタエちゃん